香美町

総合治水の取り組み（香美町）

取り組み一覧

１「ながす」：河川下水道対策

① 海水位上昇による逆流対策に係る七日市排水ポンプ施設と、JR アンダーによる道路雨水対策に係る山手隋道ポンプ場（軽微な施設）の適切な維持管理を行う。

２「ためる」：流域対策

① 香美町独自の各戸貯留制度を推進

香美町独自の取り組みとして、平成１９年から実施している各戸貯留に対する補助金制度については、これまでに１１件の実績がある。

今後、この制度を継続的に実施するとともに、制度啓発を行い一層の申請者を増やしていき、総合治水に対する町民の意識啓発に努める。

【各戸貯留制度の概要】

雨水貯留施設の設置工事費の２／３を補助（上限５万円　※改造工事は上限１０万円）

② 香美町の林野保全対策及び農地保全対策の取組み

香美町は、全体面積の 86%が山地面積、農地面積は 5%で合計 91%を占める山間地域であるため、山林の保全と農地の保全が保水機能維持にとって最も大切となる。

このため、山林保全整備と農地保全整備に引き続き取り組むとともに、今後は耕作放棄地対策にも取り組んでいくこととする。

３「そなえる」：減災対策

①防災行政無線のシステムの統一及び屋外拡声子局の増設

旧３町で異なっていた防災行政無線のシステムを統一するため、平成２５年度に小代区、平成２６年度に村岡区において防災行政無線デジタル化整備事業を実施した。整備後は全町一斉放送（全戸設置の戸別受信機及び屋外拡声子局）が可能となり緊急情報等の伝達のスピード化が図れた。また、現在、香住区内には屋外拡声子局を１５基設置しているが、津波及び風水害対策のため香住谷川周辺も含めて今後計画的に増設を図っていく。

③ 全集落で福祉・防災マップの作成・更新

平成２０年～２２年度の３カ年で、地元住民が参加して、土砂災害危険箇所、土砂災害警戒区域、浸水想定区域等の危険箇所、消火栓、自動販売機等の資源、避難所等の情報を盛りこんだ福祉・防災マップ（資源・危険箇所マップ）を全集落で作成し、全戸配布した。その後は、３年に一度更新している（平成２４年度、平成２７年度）。

また、「共助」としての災害時要援護者対策として、災害時に避難に不安がある方の支援を各集落で行うため、手上げ方式による「ささえあい・要援護者登録」を行い、

これを受け、各集落で地域支援者を決定するとともに、福祉・防災マップ（ささえあい・要援護者マップ）を全集落で作成した。このマップは、災害時だけでなく、平時の見守り活動や防災訓練にも活用している。なお、年一回更新している。

③県（河川管理者）設置の河川水位表示板に加え、町独自の河川水位表示板を設置

増水時の河川水位把握の正確性を高めるとともに、スピード化を図るため、香美町独自で矢田川等に河川水位表示板を平成２４、２５、２７年度の３ヵ年で２３箇所設置した。これにより、小河川水位の確認が可能となり、町の避難勧告等の発令前の自主的な避難を促進する。

平成２４年度　矢田川、美の谷川、守柄川、大谷川（香住区）、小原川、湯舟川、大谷川（村岡区）、中川、久須部川

平成２５年度　香住谷川、安木川、佐津川、上計川、長谷川、西川

平成２７年度　香住谷川、佐津川

○香住谷川

○佐津川

④避難路の整備及び海抜表示板の設置

東日本大震災を受け、津波対策だけでなく浸水対策も視野に入れ、主要な高台を拠点避難地として位置づけ、平成２４年度に拠点避難地への避難路を香住谷川周辺も含めて町内５箇所整備した。

また、沿岸部を中心に町内１００箇所に海抜表示板を設置するとともに、避難所の看板１６４箇所更新・新設に合わせ、４３箇所には海抜を表示した。これにより、自分が住んでいる場所の海抜が容易に確認できる。また、常時見ることにより、津波だけでなく風水害も含めた災害全般に対する町民の防災意識の向上が図られている。

⑤町総合防災訓練の実施

毎年、町、自主防災組織、消防団、美方広域消防本部、美方警察署、香住アマチュア無線クラブが連携し、約９，０００人の町民が参加して町内全域において町総合防災訓練を実施している。近年は、東日本大震災を受け、沿岸部を中心に津波を想定した地震災害を、また、豪雨災害が頻発している状況を受け、山間部を中心に風水害を想定し、「自らの命は自らで守る」、「自らの地域は皆で守る」ため、避難・避難誘導訓練や災害時要援護者への避難支援訓練を最重点項目として実施することにより、「自助」・「共助」の意識を高めるとともに、併せて防災関係団体が協力して情報収集・伝達訓練を実施することにより、「自助」・「共助」・「公助」の連携の強化を図っている。

今後も、継続して実施していく。

～香住谷川流域をモデル地区として総合治水対策を重点的に実施～

香美町の中心市街地を貫流する香住谷川は、これまで度重なる浸水被害に加え、平成２年の災害では、地域医療を担う公立香住病院を含め340戸余りが浸水するなど甚大な被害を受けている。また、支川の森谷川流域には香美町本庁舎や香住第一中学校、商業施設が立地しているなど、香住谷川流域は、香美町にとって最も重点的に治水対策に取り組む必要のある地域の一つであり、これまで香美町としても様々な総合治水対策に取り組んできた。

今年度より、兵庫県において香住谷川の河川改修事業に着手していただいており、これを契機に、この香住谷川流域を総合治水対策のモデル地区として、以下にあげる対策について、いっそう重点的に取り組んでいく。

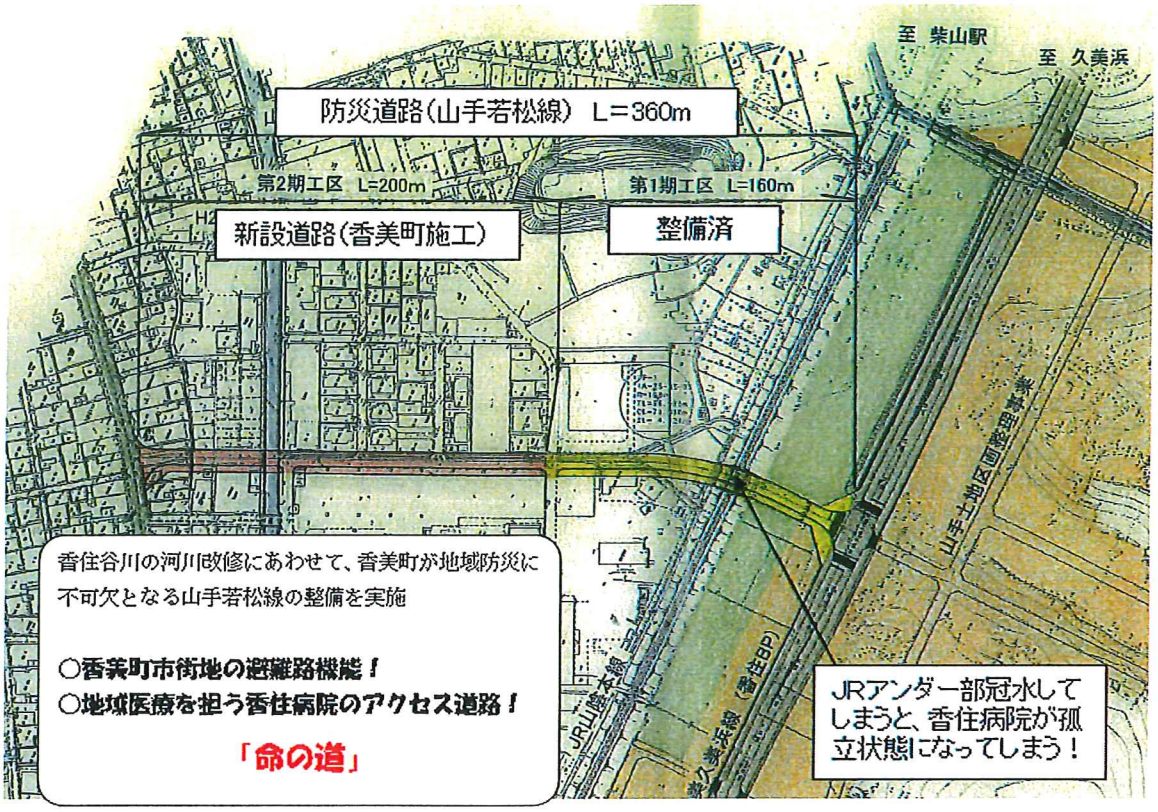
森谷川地区（香住谷川の支川）で重点的に取り組む流域対策

区　分	取組名称	取組内容
雨水貯留施設	香美町庁舎	・　庁舎前駐車場地下に貯留槽を設置しており、洪水時における、森谷川への排水を抑制する。
	香住第一中学校	・　森谷川増水時に香住第一中学校のグラウンドに堰板を設置することにより、遊水池機能を持たせ、浸水被害の軽減を図る。
	開発指導	・　森谷川流域の指定区域内で500m²以上の開発行為を行う場合は、貯留槽等の雨水調整施設を設置するよう指導し、５件に取組んだ。

香美町職員による堰板設置訓練（香住第一中学校）

香住谷川地区で重点的に取り組む減災対策

区　分	取組名称	取組内容
避難体制	屋外拡声子局の増設	・　香美町内においては平成２６年度末で防災行政無線の全町統一が図られた。今後は、香住谷川流域も含めて計画的に屋外拡声子局を増設し、風水害や津波災害時における避難誘導強化に取り組む。
	防災道路の新設	・　香住谷川沿いは地盤が低いため、並行する道路も冠水する恐れが高い。このため、香住谷川の河川改修に合わせ香住ﾊﾞｲﾊﾟｽと香住市街地線を結ぶ山手若松線を香美町で整備し、災害時における避難路を確保する。 　また、公立香住病院の周辺道路は、JRアンダー部などが路面冠水し、災害時に孤立する恐れがある。このため、山手若松線の整備により災害時における病院へのアクセスルート確保が可能となる。
	避難所（香住第一中学校）の嵩上げ	・　香住谷川流域は浸水被害のおそれが高いことから、病院や避難所等の重要施設は浸水しない高さで設置する必要がある。 　このため、平成２年の浸水被害を受け、公立香住病院では、平成２年と同規模の洪水が発生しても浸水しない高さで改築を行った。 　また、避難所に指定されている香住第一中学校においても、平成２６年度から実施している耐震化工事に合わせて１階部分の嵩上げを行う。



平成27年度香美町総合防災訓練

香美町　町民

そなえる　～減災（ソフト）対策～

内　容

８月３０日（日）に、町、自主防災組織、消防団、美方広域消防本部、美方警察署、香住アマチュア無線クラブの約８，０００人が参加し、避難・避難誘導訓練や災害時要援護者の避難支援訓練を最重点項目として実施した。

町で災害想定を示し、これに基づき各自主防災組織で計画し、避難・避難誘導・避難支援訓練及び情報収集・伝達訓練は必須項目とし、消火訓練、救出・救護訓練、給食・給水訓練等を併せて実施した。

町も災害対策本部を設置し、各集落の避難状況・被害状況の情報収集、防災行政無線・広報車による町民への情報提供、町内の道路等の被害状況の調査、救援物資の搬送、第二次避難所の開設・運営等の訓練を実施した。

進捗状況・実績

毎年、８月の最終日曜日に実施している。

今後の予定

今後も引き続き実施し、「自助」・「共助」による地域防災力の向上を図るとともに、併せて、「自助」・「共助」・「公助」の連携強化を図っていく。

新温泉町

総合治水の取り組み（新温泉町）

取り組み一覧

１「ながす」：河川下水道対策

①新温泉町は岸田川流域を中心とした町であり、岸田川等２級河川を管理する兵庫県とともに、人家へ被害の恐れのある普通河川の堆積土砂撤去、河川改良工事等施設の適切な維持管理を行っており、今後とも継続して実施していく。

②町道の水路・管渠や農業用水路を適切に管理していくことで内水処理対策に努めていく。

２「ためる」：流域対策

①森林の防災機能を高めるとともに、山林が持つ保水機能の効果を維持していくため、緊急防災林整備や里山防災林整備に継続して取り組んでいく。

○緊急防災林整備

1 間伐を実施した森林で実施

2 目的　山地災害防止機能の強化

3 整備　間伐木を利用した簡易土留工（丸太柵工）の設置

4 効果　表土及び伐採木の流出防止

5 新温泉町全域で実施（H18 から）

○里山防災林整備

1 目的　集落裏山里山林の防災機能の強化

2 現況　手入れ不足の不健康な山林
急斜面にある倒木被害が想定される危険木

3 整備　森林整備（危険木及び竹林の伐採・抜き伐り）
防災施設（伐採木を利用した柵工、簡易な防災施設（カゴ枠、水路工））

4 効果　防災に強い森林（危険木の除去、表土の流出防止、不安定土砂の固定）

5　H18～H27 まで 10 地区完了、現在 1 地区：計画（古市）
（H25 数久谷、諸寄）

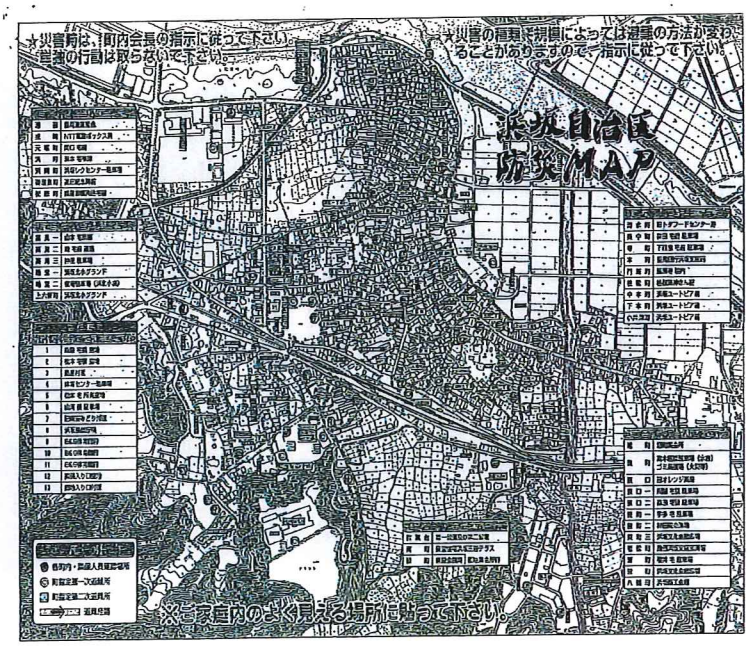
3「そなえる」：減災対策　**－新温泉町では「逃げる」対策に重点的に取り組みます－**

新温泉町は但馬地域で最も人口、面積の小さい町であり、この特徴を活かして、災害地時には、全町民が避難できる体制が確保できるよう、きめ細かな減災対策に重点をおいて取り組んでいきます。

①新ハザードマップの作成	平成２１年度に洪水ハザードマップを作成し、全戸配布済であるが、今後、土砂災害の情報など最新の情報を入れた、より住民にわかりやすい新ハザードマップを作成する。
②自主防災マップの作成推進	平成２年の台風災害で甚大な浸水被害を受けた浜坂自治区では、地域独自の詳細な情報を盛り込んだ自主マップを作成した（平成２３年度）。平成２４年度にはマップを活用して町の防災訓練で避難訓練や炊き出し訓練を行った。この防災マップを随時、更新していき、住民の共助による避難意識を高めていく。また、居組区も平成 21 年度に作成し、防災訓練で活用している。他地区においての自主防災マップの作成を支援していく。
③ケーブルテレビで河川映像を放映	増水時に早めの適切な避難行動ができるよう、新温泉町ケーブルテレビ（夢ネット）では、災害警戒時に県の河川監視カメラの情報を２４時間放映できるようにしている。（温泉地域のみ）また、河川映像は町ホームページからも容易にリンクできるようにしている。
④実績浸水深を明示	平成２年の台風災害では浜坂病院が浸水被害を受けており、避難・救助活動に大きな支障をきたした。これを教訓として平成２５年度に病院に浸水実績表示看板を２箇所設置しており、日頃からの防災意識を高める。
⑤共助による避難体制確保	新温泉町では、各集落で自主防災組織を組織しており、組織率は 100%となっている。出前講座の実施や自主防災組織における訓練実施を行うことで、日頃から町民が防災に対する意識を持ち、災害時要援護者については、誰がどのように声を掛けていくかなど、コミュニティ単位での避難行動ができる体制を確保していく。

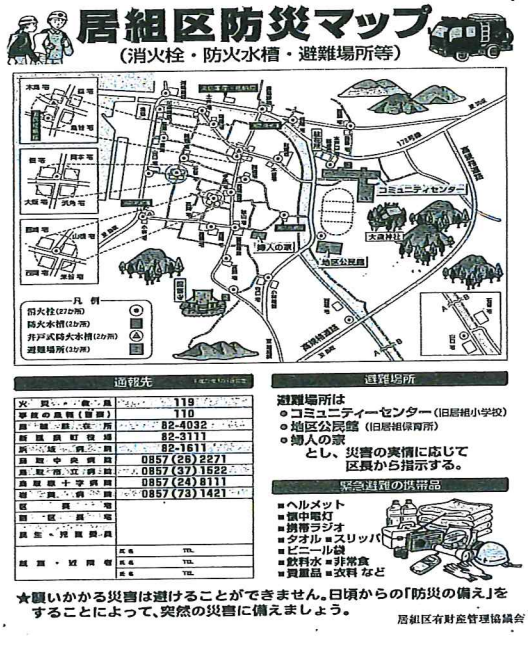
①新ハザードマップの作成

②自主防災マップの作成推進(浜坂自治区)



（防災訓練での避難訓練）

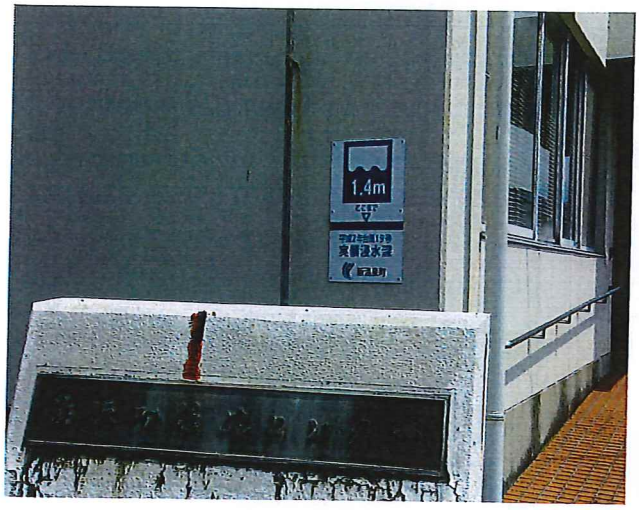
（居組区防災マップ）



③河川情報は町ホームページから容易にリンク

④実績浸水深を明示

（保健センター側）



（浜坂病院玄関）

⑤共助による避難体制確保

（出前講座）

新温泉町における減災（ソフト）対策

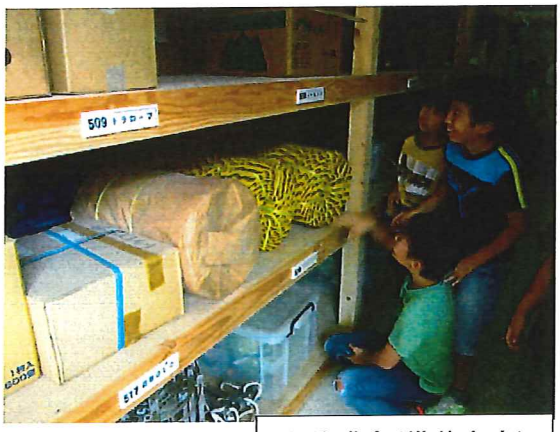
新温泉町　県民

そなえる　～減災（ソフト）対策～

防災訓練

土のう積み訓練

出前講座


出前講座（備蓄倉庫）

内容・実績

「平成２７年度　新温泉町総合防災訓練」

平成 27 年 10 月 25 日（日）に実施。自然災害に迅速に対応できるよう、町・住民が一体となった防災体制の構築を図るため、防災訓練を実施。第１部は新温泉町各地区の指定緊急避難場所への避難訓練、第２部はすこやか広場にて、関係機関（新温泉町、美方広域消防本部、新温泉町消防団、美方警察署、自主防災組織、新温泉町社会福祉協議会、(社)兵庫県エルピーガス協会）が参加する訓練を実施。第１部には 5,188 名が参加し、第２部には 511 名が参加した。

「出前講座」

防災の向上を図るため、水害と土砂災害について学び、それらの備えについて考える出前講座を小学校で実施。出前講座は３回実施。

「自主防災組織における訓練」

新温泉町では、各集落で自主防災組織を組織している。自主防災組織における訓練を実施することで、日頃から町民が防災に対する意識を持ち、災害時要援護者については、誰がどのように声を掛けていくかなど、コミュニティ単位での避難行動ができる体制を確保していく。自主防災組織における訓練は３２組織が実施した。

今後の予定

来年度以降も引き続き実施し、防災力の向上を図る。

水田貯留の実施

県　新温泉町　県民

ためる　～流域対策～

セキ板設置状況（二日市地区）

内容

水田貯留（田んぼダム）

平成 27 年度に県から “切り欠きのあるセキ板” の配布を受け、田んぼの落水口に設置することで、雨水を一時的に貯留し、河川への流出を遅らせて下流部の洪水被害を軽減する水田貯留の取り組みを 4 地区（21.5ha）で行った。

実績

二日市地区（9.1ha）
七釜地区　（4.6ha）
井土地区　（6.5ha）
千谷地区　（1.3ha）

今後の予定

来年度以降も引き続き実施し、防災力の向上を図る。